

令和 5 年度 ズッキーニ 技術情報 No. 2

大船渡農業改良普及センター
電話：0192-27-9918 FAX：0192-27-9936

- ① 適期の追肥、摘葉等を行い、草勢維持に努めましょう。
- ② 大雨等に備えて、病害虫防除を実施しましょう。



1. 栽培管理

(1) 摘果

開花初期は着果負担を軽くし、根を張らせて草勢を維持することで、後半の収量を確保します。

(2) 追肥

定植 30 日後頃から開始し、2 週間おきに窒素成分で 3 kg/10a を目安に施用します。(野菜追肥 S535 の場合、20kg/10a)

果実の尻太りや蕾の曲がりや草勢低下の合図です。草勢が低下する前に追肥をしましょう。

(3) 摘葉

古くなり黄色くなった葉や果実を覆っている葉は、摘葉します。摘葉時は、葉柄を残すことによって株の倒伏防止になります。

葉柄が上向きに伸びた葉は、雨水が入りやすく、病害発生の原因となるため、摘葉は控えます。



図 1 摘葉の仕方

2. 今後注意したい病害虫

(1) 軟腐細菌病（腐敗）

<症状>

主茎や果実が軟化腐敗し、腐敗した部分に白い菌泥が付着して悪臭を放ちます。

<原因>

病原細菌は、土壌中に存在し、高温多湿条件で増殖します。

雨によって圃場に広がり、傷口や害虫の食害痕から植物体に侵入し、被害が発生します。

※春まき作型で発生した圃場では要注意です。
高温時の降雨後は特に気を付けましょう。

<対策>

雨や台風通過前もしくは直後に薬剤散布を行いましょう。
圃場排水・草勢維持に努めましょう。



図2 腐敗した罹病株

(2) うどんこ病

<症状>

葉にうどんこ状の病斑を生じる。

<対策>

高温乾燥や草勢低下によって発生しやすいので、草勢の維持に努めましょう。



図3 葉の病斑

(3) アブラムシ類

<症状>

葉や茎に寄生し、ウイルス病を伝播します。

<対策>

防除暦を参考にして、初期から防除を実施しましょう。



図4 葉裏に寄生したアブラムシ

★いわてアグリベンチャーネット

URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

岩手県からのお知らせに加えて、農業技術情報や病害虫に関する情報、各地域の情報など盛りだくさんです。ぜひご覧ください！！

★6月1日～8月31日は農薬危害防止運動実施中

使った農薬は使用履歴を記帳し、適正使用を徹底しましょう！